

サニナビ

北九州



北九州市保健所
東部生活衛生課
広域食品指導係
小倉北区西港町 94-9
TEL 093-583-2048
FAX 093-583-2044

中心温度計の校正を実施しましょう

中心温度計は使い続けているとズレてしまっていることがあります。

せっかく中心温度を測っていても、その温度計が故障していれば、確実に加熱されているのか調べる事ができません。正しい温度を示すかどうか定期的に月に1回程度確認校正をしましょう。

①高温の確認：沸騰している状態のお湯を測って、100℃付近を示すかどうか確認しましょう。

※汁物は塩分の影響で沸点が100℃超になるため、必ず水を使用しましょう。
②低温の確認：氷水(氷が多め)を測り、0℃付近を示すか確認しましょう。

Q・・・氷水で校正した場合、4〜5℃になってしまふのですが、どうやったら0℃になりますか？
A・・・氷水を入れた容器の中央から上の水を測定するようにしてください。

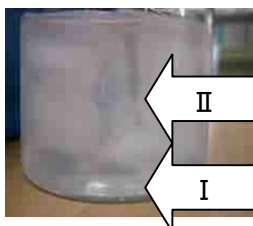
実際に保健所の中心温度計で測定したところ次のような結果になりました。

I センサーの先を容器の底につけた状態
中心温度計1：0.0℃
中心温度計2：1.3℃

II 容器の底から浮かせた状態

中心温度計1：0.6℃
中心温度計2：0.4℃

水底には4℃の水がたまりやすく、また容器は外気温度の影響を受けるため、容器の中央から上の水を測定してください。



記録例

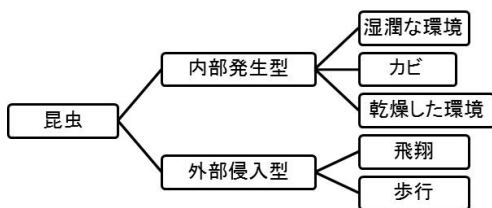
○月○日	
中心温度計校正	
No1: 100.2℃	0.5℃
No2: 99.7℃	0.3℃

③校正を実施したら、日付ごとの温度小点数以下までの記録を残しましょう。
※±1℃程度の誤差であれば大丈夫ですが、あまり誤差が大きい場合は調整や交換をしてください。

昆虫の侵入・発生を防ぎましょう

これから暖かい気候となり昆虫が増えるため、注意が必要です。

屋外から侵入する「外部発生型の昆虫」は時期により発生数が大きく左右されます。例えば、昨年大量発生したクロバネキノコバエは、枯葉や腐敗した木、畑や土壌が発生源となり春〜秋にかけて多く見られます。これらの昆虫は外からの侵入を防ぐ必要があります。一方、「内部発生型の昆虫」は時期に左右されず発生条件が揃えば一年中見られます。これらの昆虫は発生場所の清掃する必要があります。



○外部侵入型の昆虫一例
飛翔：ユスリカ、クロバネキノコバエ
歩行：アリ、クモ
(対策)

- ・施設の出入り口や窓はなるべく閉める
- ・外部に通じる箇所には網戸や防虫カーテンを設置し、隙間をふさぐ
- ・ダンボールなどの運搬容器は調理室へ持ち込まない
- ・検品時に目視確認をする

○内部発生型の昆虫一例
湿潤な環境：チョウバエ、ノミバエ、ショウジョウバエ、コキブリ

カビ：チャタテムシ、ヒメマキムシ
乾燥した環境：コクヌストモドキ、ヒラタムシ

(対策)

- ・生ゴミはこまめにゴミ捨て場に移す
- ・施設内(床、排水溝、調理機器など)の清掃を行い清潔に保つ
- ・原料の粉や埃が溜まらないようにする

カビの多い季節がやってきました

カビの多くは土壌に由来し、空気・水まわり・人・動物・ものを介して移動します。一般的には湿ったところに多いことと知られていますが、乾燥した場所でも見られます。

- ・カビが問題となりやすい場所やもの
- ・ダンボールや発泡スチロール等の容器
- ・高温度になる作業場所
- ・埃が堆積しやすい空調設備
- ・シンクや排水溝などの水回り
- ・冷蔵・冷凍室のパッキン部分



梅雨入りも近づいてきて、カビが発生しやすくなります。アルコールや塩素系の薬剤などでの清掃が有効です。また、カビの生えやすいものは持ち込まないようにしましょう。

編集後記

六月に入り、温度・湿度ともに高くなってきました。調理施設内は大変暑くなりますので水分をこまめにとりましょう。今月の写真は、「野バラ」です。